

# 根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2018/11/12 実施)～

参加者: 3名

穏やかな陽ざし、風もなく暖かい。ジャヤナギの下は草がすっかり刈られ、地面はヘイチゴの新しい葉で覆われている。他にハルジオン、ギシギシの葉も見られた。先月と同じようにカラスザンショウを見上げると重そうな実がまだしっかりついていた。ジュズダマ、ノブドウ、ヤブミョウガ、ソクズ、ヒカゲノイノコズチ、ヒメジソ、ヒヨドリジョウゴ、オナモミは実をついていた。イヌホウズキは白い花と実が見られた。ミゾソバは？とみると白いツボミのような様子。これはそう果？ということで、中を確かめる。まだ白っぽいのが種のような硬いものが入っていた。



ミゾソバ

山側の木立からはさかんにヒヨドリの鳴き声が聞こえる。アシの藪の中からはスズメと共にアオジらしき声もきこえる。しばらくしてヒーッ、ヒーッと声が聞こえた。声の主を捜すと、川の向こうの桜の木にジョウビタキみ、がきていた。オレンジ色の姿が美しい。ハクセキレイ、ハシボソガラス、ウグイスの声も聞いた。けれど今日はカルガモの姿はみられない、水鳥がいないのはなんとなく寂しい。近年この湿地に集まる鳥の数はへっているのか？

湿地全体に草刈がおこなわれており、見通しがよくなっていた。シロバナサクラタデもからんでいたツルマメなどと一緒にサッパリ。来春の芽生えに期待したい。刈られたあとの地面では小さなヒメジソ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウが見られる。他にケイヌビエ、イヌガラシ、イヌタデなど。コブナグサはもう枯れた状態でモサモサ固まっている。ボントクタデ、カントウヨメナ、ヌカキビがまだひっそりと残っていた。去り行く秋を惜しむかのような。



ボントクタデ



コバネイナゴ

コバネイナゴは草の間を飛び回り元気。ジョロウグモも3Dの巣にぐるぐる巻きの蛾らしきものをぶら下げていた。オレンジ色のチョウチョはよく見るとキタテハだった。アキアカネ、そしてハグロトンボもまだ一頭だけとんでいた。湿地、山側の木々にはツマグロヨコバイが沢山いた。国道側の十月サクラは今年も花をつけている。ビワの花は満開だが、地味でめだたない。コブシはビロード状の花芽をつけていた。

先月の観察会からの間隔が短いせいか、植物の大きな変化は感じられなかったが、それでも秋は一步一步深まっているようだ。公園出口の近くに来ると、またまたアオジらしき鳴き声が聞こえるが、ここでも声のみ、姿はなかなか見せてくれない。もう少し落ち着いたら姿を見せてくれるのかな。



コブシ



ツマグロオオヨコバイ



キタテハ

12月の湿地の観察会は、、、

**12月16日(日)**

**9:30 駐車場集合** (小雨決行) です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。  
お問い合わせは下記メールまでお願いします。

[akihitoaizawa@gmail.com](mailto:akihitoaizawa@gmail.com) (相澤)